Konica

Z-up 70

ご使用前に必ず
お読みください。

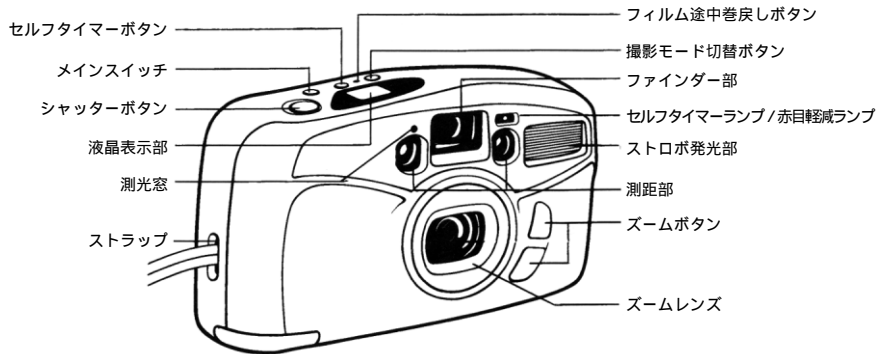
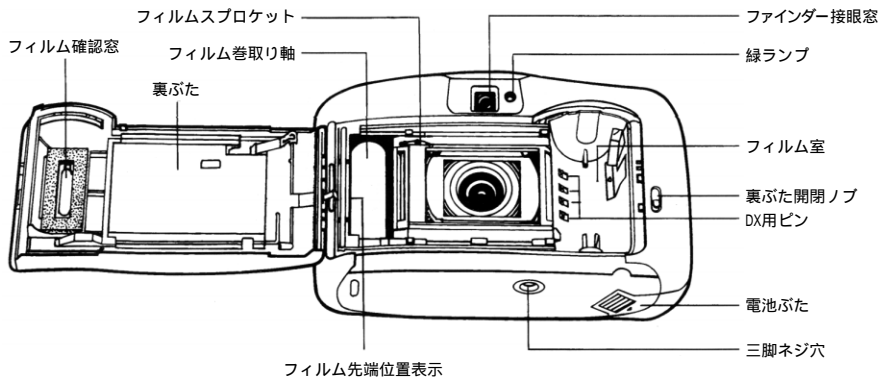
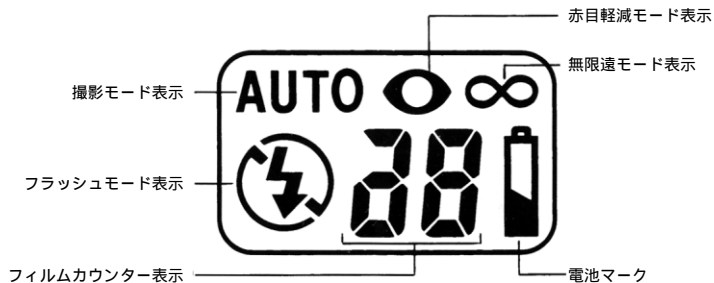
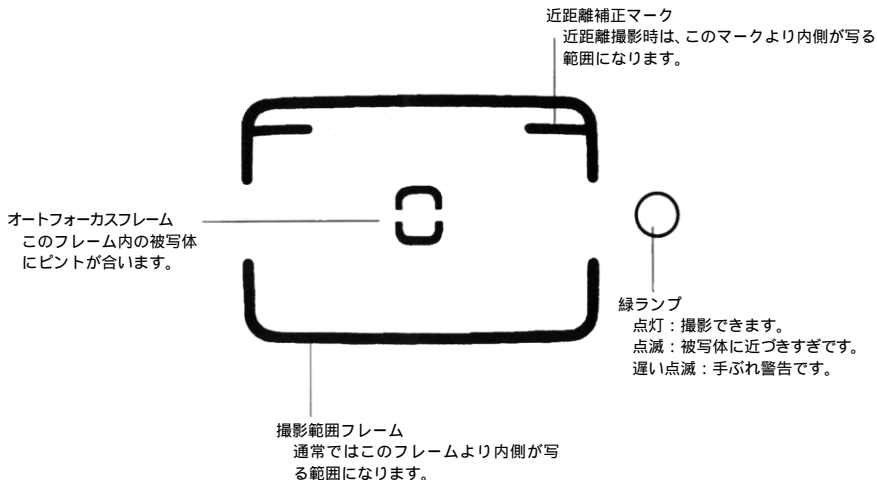
使用説明書

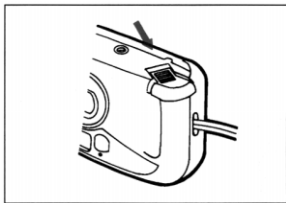
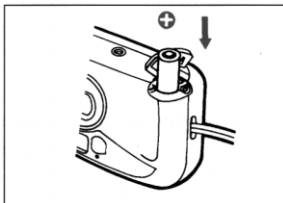
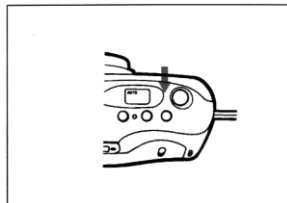
各部の名称

セルフタイマーボタン
メインスイッチ
シャッターボタン
液晶表示部
測光窓
ストラップ
フィルム途中巻戻しボタン
撮影モード切替ボタン
ファインダー部
セルフタイマーランプ／赤目軽減ランプ
ストロボ発光部
測距部
ズームボタン
ズームレンズ

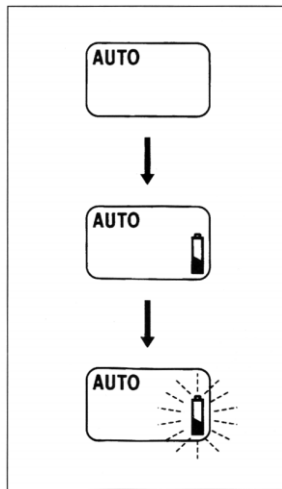
フィルムスプロケット
フィルム確認窓
フィルム巻取り軸
裏ぶた
ファインダー接眼窓
緑ランプ
フィルム室
裏ぶた開閉ノブ
DX用ピン
電池ぶた
三脚ネジ穴
フィルム先端位置表示

撮影表示パネル

赤目軽減モード表示
無限遠モード表示
撮影モード表示
AUTO
フラッシュモード表示
フィルムカウンター表示
電池マーク

ファインダーと表示ランプ

1．電池を入れてください

＊電池を入れた時、交換した時はオートデートの調整を（15ページ）してください。

電池ぶたを図の矢印方向に引き出して開けます。

電池室内の＋－の表示に従ってリチウム電池(CR-123A)を入れます。

電池ぶたを閉じ、メインスイッチを押してONにします。
OFFにするときは、メインスイッチをもう一度押します。

＊ 電池はデート用と共用です。電池を取り出すと数分後に記憶されている日付・時刻の表示は消えます。

電池交換の時期

メインスイッチをONにして、液晶表示部の電池表示が点滅したときはシャッターが切れません。新しい電池と交換してください。

＊ 使用済みの電池は火の中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱しないでください。

注 下記の場合、電池表示が点滅することがあります。

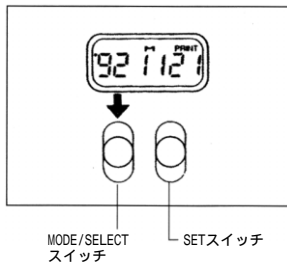
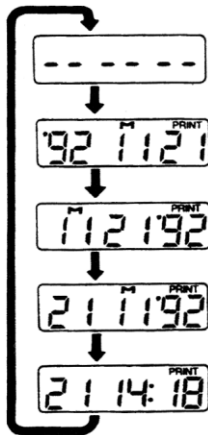
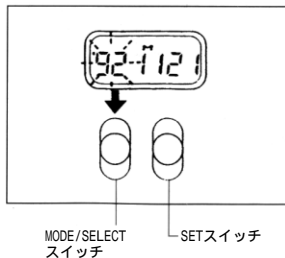
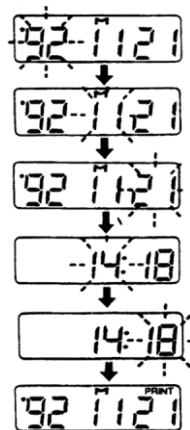
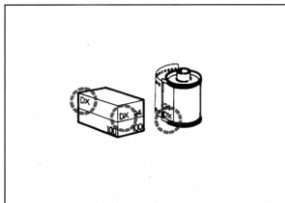
・ 低温による電池性能が低下した時。カメラを温めると正常に戻る場合があります。

・ メインスイッチをONにしたままや、裏ぶたを開けたまま保管した時。
新しい電池と交換してください。

2．オートデート

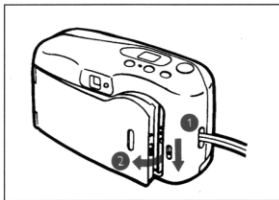
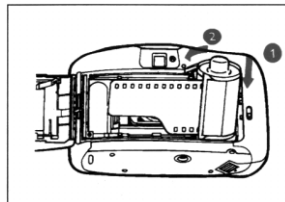
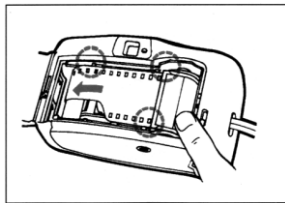
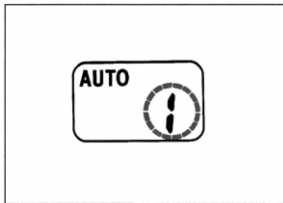
2019年12月31日までの日付・時刻を記憶し、画面に写し込むことができます。

表示モードの切替え

MODE/SELECTスイッチを押して、年月日、日時分、写し込みなしを選びます。

＊ 写し込みの位置が明るい場合や白、オレンジの場合は文字がはっきり出ないことがあります。

日付・時刻の修正

1) MODE/SELECTスイッチを２秒以上押して、年が点滅したら押し直し、修正する日付・時刻を点滅させます。
2) SETスイッチを押して日付、時刻を点滅のまま修正します。
3) 修正が終わったらMODE/SELECTスイッチを分の点滅が終わるまで押し直すと、PRINTの文字が表れて写し込みの状態になります。

３．フィルムを入れてください

DXコードの付いた35ミリフィルムをご使用ください。

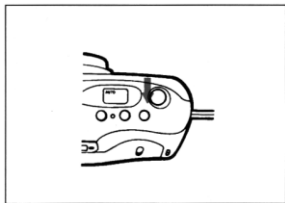
フィルム感度ISO50〜3200のフィルムをお使いください。フィルム感度が自動的にセットされます。

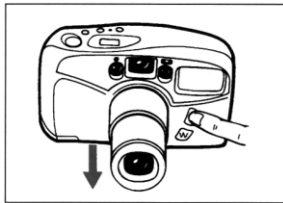
DXコードの付いていないフィルムは、ISO 100にセットされます。

- 晴天戸外の撮影にはISO 100
- 曇りや室内撮影にはISO 400
  のフィルムをおすすめします。

裏ぶた開放ノブを下方に押すと裏ぶたが開きます。

フィルム室下側の巻き戻し軸にパトローネの凹部を合わせて、フィルム室に押し込むようにして入れます。

フィルムを少し引きだし、先端をカメラ内部の先端マーク(←)に合わせてください。

裏ぶたを閉じるとフィルムは１枚目の撮影位置まで自動的に送られます。

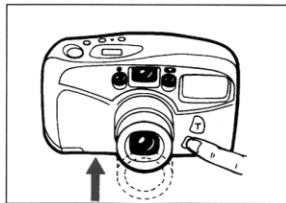
＊ フィルム確認窓を見れば、フィルムが入っているかどうかわかります。

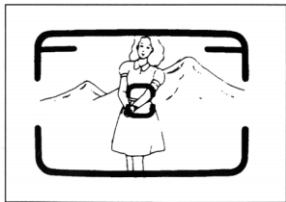
＊ フィルムカウンターの０が点滅したときはフィルムが正しくセットされていません。もう一度フィルムを入れなおしてください。DXコードのないフィルムはフィルムカウンターに０の表示が出ません。

4．いよいよ撮影です(一般撮影)

メインスイッチを押してONにします。

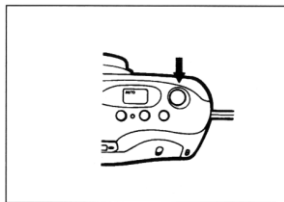
＊ レンズ部が繰り出し、液晶表示部に表示が出ます。

ファインダー接眼窓をのぞきながらズームスイッチをＴ側に押すと、画面が望遠側に移動します。希望の構図になったとき、指を離して止めてください。

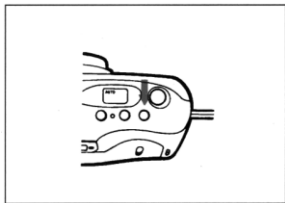
＊ レンズは望遠70㎜まで移動します。

＊ ファインダーの視野に写る画面は連動しています。

ズームスイッチをW側に押すと、画面が広角側に移動します。希望の構図になったとき、指を離して止めてください。

＊ ズームスイッチ(Ｔ側)で被写体を大きくしすぎた場合、ズームスイッチ(W側)で戻すなど、画面の調節が迅速にできます。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、自動的にピントが合います。

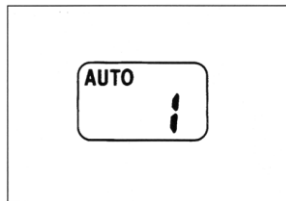
＊ シャッターボタン半押しで緑ランプが点滅したときは、被写体が近すぎてピントが合わない警告でシャッターがきれません。被写体から少し離れて押し直してください。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

＊ 撮影が終わるとフィルムが１コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が１つ進みます。

撮影が終わったらメインスイッチを押してください。電源OFFとなり、レンズが収納されます。

＊メインスイッチONの状態で約５分以上使わないと節電のため液晶表示が自動的に消えます。(オートオフ)

またレンズも38㎜となります。表示を見たい時はシャッターボタンを半押しします。

＊ 続けて撮影しないときは電源OFFにしてください。

5．自動フラッシュ撮影

シャッターボタンを半押しして、緑ランプが点灯したら、フラッシュが自動発光します。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、フラッシュ撮影をしてください。

暗いときフラッシュが自動的に発光します。

＊ 人物をフラッシュ撮影するときは、赤目現象を軽減するため、赤目軽減撮影をおすすめします。

フラッシュ撮影の距離

フィルム感度	撮影距離	
	ワイド (38mm)	テレ (70mm)
50	0.8 ー 2.8	0.8 ー 2.1
100	0.8 ー 4.0	0.8 ー 3.0
200	0.8 ー 5.7	0.8 ー 4.2
400	0.8 ー 8.0	0.8 ー 5.9
800 (1000)	1.1 ー 11.3	1.0 ー 8.3

6．フォーカスロック撮影

＊写したい被写体がピント枠からはずれるときもピントが合わせられます。

1．ピント枠を一方の人物に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
ピントが合えば、緑ランプが点灯します。

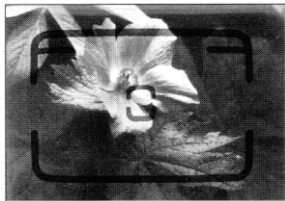
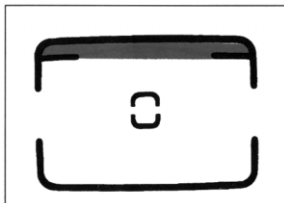
2．半押しの状態で希望の構図に向けシャッターボタンを押し込みます。

＊ フォーカスロックはシャッターボタンから指を離せば、何回でもやりなおすことができます。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

1 反射しにくい黒いもの
2 小さいもの、細いもの
3 発光体
4 光沢のあるもの

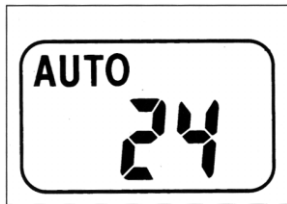
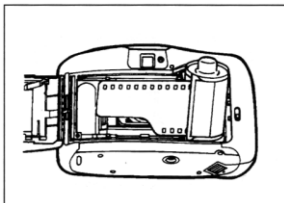
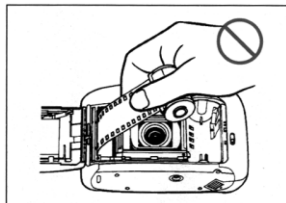
ピントが合いにくい被写体も、フォーカスロックで撮影します。ピント枠を被写体とほぼ同じ距離にあるものに合わせ、シャッターボタンを半押しして、そのままの状態で被写体に戻してシャッターを切ります。

7. 近距離撮影

ズームスイッチ(T側)でレンズを望遠70mmにセットし、0.8mm〜1mに近づいてピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを合わせます。

ファインダーの近距離補正マーク内で構図を決め、シャッターをきってください。

* 構図上、被写体がオートフォーカスフレームからはずれる場合は、フォーカスロック撮影をしてください。
* 三脚を使い、セルフタイマー撮影をすると、カメラぶれを防げます。

シャッターボタンを半押しして緑ランプが点滅したときは…

0.8mより近すぎでピントが合わない警告で、シャッターがきれません。被写体から少し離れて押し直してください。

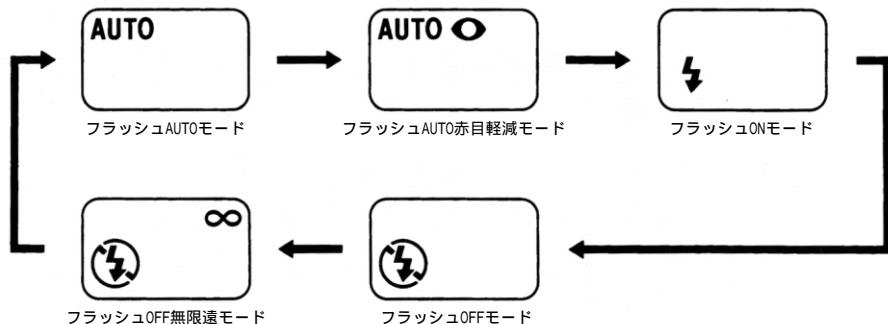
8．フィルムの取り出し方

フィルムを最後まで写し終えると、自動的に巻き戻されます。

巻き戻しが完了すると、モーターは自動停止し、メインスイッチがOFFとなり、液晶表示が消えます。裏ぶたを開けフィルムを取り出します。

途中巻き戻しするときは、フィルム途中巻き戻しボタンをボールペンのようなもので押すと、巻き戻しを始めます。

＊ 巻き戻し途中では、絶対に裏ぶたを開けたり、電池を取り出したりしないでください。

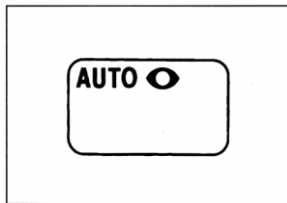
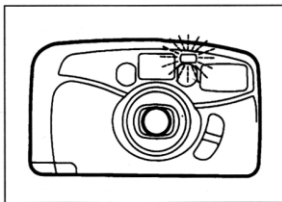
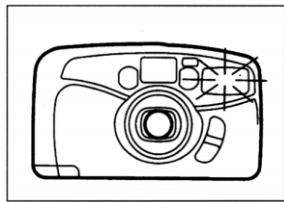
＊ フィルムの使用途中で裏ぶたを開けて、フィルムを引っ張り出さないでください。

応用撮影

撮影モードの切替による、赤目軽減撮影、日中フラッシュ撮影、ポートレート夜景撮影、フラッシュなしの撮影、無限遠撮影及びセルフタイマー撮影など応用撮影について説明します。

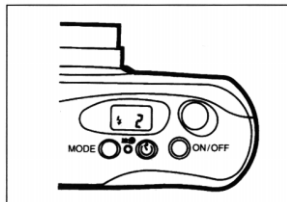
９．モードスイッチの操作

＊ メインスイッチをONにすると、常にフラッシュAUTOモードとなります。
＊ 撮影モードを切り替えるときは、撮影モード切替ボタンを押します。
＊ ボタンを押すたびにモードは上記の順序で切替わります。

10. 赤目軽減撮影

＊ 目が赤く写るのを抑えるのに効果があります。

撮影モード切替ボタンを押し撮影モードを切替えます。

シャッターボタンを押すと、赤目緩和ランプが約１秒間点火した後フラッシュが発光します。

シャッターボタンを押してフラッシュが発光するまでの約1.5秒間はカメラを動かさないでください。

赤目緩和モードでも個人差や撮影条件により赤目が緩和されないことがあります。

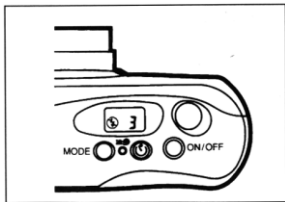
赤目緩和モードは動いている被写体には適しません。

11. 日中フラッシュ撮影(フラッシュONモード)

撮影モード切替ボタンを押してストロボONモードにします。

被写体に向けてシャッターをきれば、明るいところでもフラッシュが発光します。

効果的な被写体

① 逆光の人物
② 室内の窓際の人物
③ 曇りの日の人物
④ 日陰の人物

12. フラッシュなしの撮影

撮影モード切替ボタンを押してフラッシュOFFモードにします。

シャッターボタンを半押しにしたとき、緑ランプがゆっくり点滅すれば、シャッタースピードが遅くなり、または、バルブ撮影になり手ぶれの恐れがあります。この場合は三脚のご使用をおすすめします。

効果的な被写体

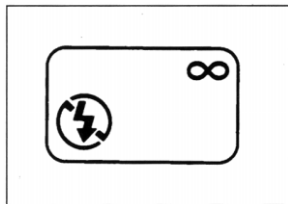
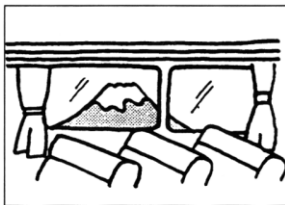
① フラッシュが禁止されている美術館での撮影
② 都会の夜景
③ 日没時の風景

・ ストロボを使わない撮影(ストロボOFFモード)

ストロボを使えない美術館内やその場のムードを生かした写真などを写すときに使います。

撮影モード切替ボタンを押してストロボOFFモードにします。

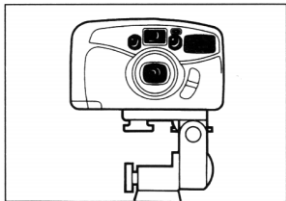
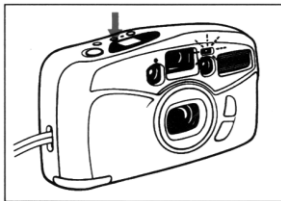
シャッターボタンを半押しにしたとき、緑ランプが点滅すればシャッタースピードが遅くなり、またはバルブ撮影になり、手ぶれの恐れがあります。この場合は、三脚のご使用をおすすめします。

13. 無限遠（遠景）撮影

撮影モード切替ボタンを押して無限遠撮影モードにします。

オートフォーカスフレーム内の被写体に関係なく、遠景にピントのあった撮影ができます。

＊ 夕・夜景など暗いときの撮影はシャッター速度が遅くなりますから、カメラぶれを防ぐために三脚を使用してください。

効果的な被写体

① 遠景
② ガラス越しの風景

14. セルフタイマー撮影

三脚などにカメラをしっかり固定して、構図を決めます。

セルフタイマーボタンを押すと同時に、セルフタイマーがスタートし、フィルムカウンターがタイマー表示に変わって逆算を始め、約10秒後にシャッターが切れます。

＊ ストロボが未充電の場合は、セットできません。
セルフタイマーランプが８秒間点滅した後２秒間点灯し、シャッターが切れます。

＊ セルフタイマーを途中解除するときは、セルフタイマーボタンをもう一度押します。

おもな仕様

形　式　35ミリレンズシャッター式ストロボ内蔵ズームレンズAFカメラ

画面サイズ　24×36㎜

レンズ　38−70㎜ズームレンズ　６群６枚構成

ピント合せ　自動焦点(フォーカスロック／遠景ロック)

撮影範囲　８ｍ〜∞

シャッター　プログラムAE式電子シャッター

露出制御(ISO 100)

フラッシュAUTOモード

38㎜：F4.7 1/30秒(EV 9.5)〜F20 1/150秒(EV 16)

70㎜：F8.0 1/50秒(EV 11.7)〜F25 1/100秒(EV 16)

フラッシュONモード

38㎜：F4.7 1/4秒(EV 6.5)〜F20 1/150秒(EV16)

70㎜：F8.0 1/4秒(EV 8)〜F25 1/100秒(EV 16)

バルブ

38㎜：EV6.5以下

70㎜：EV8以下

セルフタイマー　電子セルフタイマー約10秒

ファインダー　アルバタ式ブライトフレーム付ズームファインダー

視野率

倍率

38㎜

85%

0.36x

70㎜

85%

0.61x